

田村ひろゆき通信 H29.1



発行元：田村ひろゆきとわかりやすい政治をつくる会

代表：田村ひろゆき 〒188-0013 西東京市向台町 6-5-4

ホームページ <http://tamura-h.net/> メール info@tamura-h.net

プロフィール 1978(昭和53)年西東京市生まれ。上向台小学校、田無一中、中央大学法学部卒。元衆議院議員秘書、元武蔵野大学職員。2014年12月の市議会議員選挙に初挑戦するも及ばず。県議秘書を経て、現在は都内の旅行会社に営業職として勤務。

危ない！ 田無高校前の信号機 改善を要望



田無高校前の交差点で、赤信号なのに車が進入してくるケースを最近よく目撃します。先日は、私自身が自動車の運転手からにらまれ、信号をよく見ろ！とばかりに指をさされる経験をしました。

数か月前、この交差点の信号が「歩車分離式」になり、主に南北方向(府中道)を走る車の一部ドライバーが、車両用の信号が赤にも関わらず、歩行者用が青になったタイミングで「車両も青になったと勘違いして」発進してしまうのです。

私は所管の田無警察署にこの状況を伝えて改善を要望。対応してくれたのは交通規制係の職員の方です。「まずは現場で実際の見え方を確認する、対策としては、南北方向の歩行者用信号が車から見えないようにすること、信号サイクルの変更等が考えられる。ただ実際に変更するには数か月かかる」とのことでした。今後何らかの対応が取られるのか、注目したいと思います。

「声を上げる」ことは大切！

私がこの交差点を通るのは平日の朝・夜と土日が中心ですが、時間帯によっては自転車同士の交錯や、市民公園側からの道路が渋滞するなどの影響が出ているようです。皆さんもお気づきのことがあれば、この問題に限らず、ぜひ行政や警察に**直接「声を上げて」**みてください。一人で不満に思うだけでなく、直接訴えることでまちが良くなることもあるはずです。



合築複合化の先に、芝久保図書館の閉館？

中央図書館・田無公民館を、市民会館の場所へと移して合築複合化する計画。市民や議会から依然反対の声がある中、結論は先送りされたままです。そんな中、昨年市は「公共施設等マネジメント基本計画」を策定しました。この計画策定にあたって開かれた市民説明会の場で、私はもう一つ別のポイントに注目しました。

施設用途	増減面積 (㎡) (H25末~45年度)	個別の増減要因
1 市庁舎	600	中長期で、暫定統合（保谷庁舎廃止と田無庁舎周辺での機能の再配置）と本庁舎統合を見込む。
2 出張所	△100	中長期で、コンビニ交付等、ICTの進展を踏まえた出張所1施設の整理統合を見込む。
3 図書館	3,200	中長期で、新中央図書館（3館合築施設）建設とともに、中央館・地域館のあり方の検討を踏まえた地域館1施設の整理統合を見込む。

市民説明会資料「西東京市公共施設等総合管理計画～公共施設等マネジメント基本計画(案)の概要」より抜粋

増える面積から減る面積を引いたら…すでに芝久保図書館の面積「減」が見込まれていた！

$+5,400 \text{ m}^2$ (3館合築施設) $-1,570 \text{ m}^2$ (中央図書館) $=3,830 \text{ m}^2$
 $3,200 \text{ m}^2$ との差は、 630 m^2 芝久保図書館の面積 625 m^2 とほぼ同じ！

それは、図書館の項目にある、「地域館1施設の整理統合を見込む」という文言と増減面積の数字です。当初市の担当者は「増減面積は、3館合築施設の面積を足し、現在の中央図書館と、複数ある地域館を平均した面積を引いた数字。地域館1施設について具体的にどことは決めていない」と説明しました。

私の指摘で説明を訂正。「仮に芝久保図書館の面積を引いた」

しかし、資料の数字を手元で計算すると、引かれた面積が芝久保図書館とほぼ同じ！そのことを指摘すると、「どことは決めていないが、仮に最も面積の小さい芝久保図書館の面積を引いたもの。説明を訂正する」と答えたのです。

図書館の行方ももちろん問題ですが、市民説明会の場で市が間違った説明をしたことは問題ではないでしょうか。意図的ではなかったと思いたいですが、芝久保図書館を想定していることに触れなくなかったのでは、とうがった見方もしてしまいます。

もうすぐ西東京市長選挙。投票に行きましょう！

西東京市長選挙の投票日が、2月5日に迫ってきました。これを書いている時点では、どのような候補者が出るのかわかりませんし、特定の誰かを応援する予定もありませんが、ぜひ投票には行ってもらいたいです。※ちなみに前回（4年前）の投票率は36.93%、前々回（8年前）は37.19%でした。

「誰がなっても同じ」という理由で投票しない人もいるかもしれませんが、しかし、当然のことながら候補者の主張は同じではありません。選挙公報やチラシを見て、仮にすべての内容がわからなくても、自分に関係ある身近な問題だけでも構いません。少しでも共感できる候補者に投票しましょう。

「どの候補者も嫌だ」という人もいるかもしれませんが、それでも、嫌な言い方ですがそのうちの誰かが市長になってしまうのです。「よしましな」候補者を選ぶという選び方もあります。

棄権や白票も一つの意思表示という人もいますが、やはり選挙に行き、消極的な理由であったとしても誰かに投票することは大事だと思います。そうしなければ、必ず選挙で投票してくれる一部の人間の声により重視され、そうではない市民の声は軽んじられてしまいます。